

# 研究協力のお願

昭和大学江東豊洲病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

冠攣縮性狭心症の表現型における潜在性左室機能障害の違いと薬物反応性の関係性

## 1. 研究の対象および研究対象期間

2014年4月1日から2024年5月31日に昭和大学江東豊洲病院で冠攣縮性狭心症の診断を目的としたアセチルコリン負荷試験を受けた患者さん

## 2. 研究目的・方法

心臓を栄養する血管である冠動脈が痙攣することで起こる狭心症を冠攣縮性狭心症と言います。痙攣の形態はびまん性の痙攣と、局所的な痙攣との2つがあります。冠動脈の痙攣が局所的な痙攣のある患者さんの予後が悪いことが知られています。一方で、びまん性の冠動脈の痙攣がある患者さんは心臓の障害される範囲が大きいため、痙攣を予防する薬の内服を開始した後も治療の反応が悪く胸痛発作の頻度が多いことが知られています。

近年、より早期の心臓の障害を同定する指標として、経胸壁心臓超音波検査の画像を2-D speckle tracking法(心臓局所の壁の厚さの変化(歪み、strain)を評価できる方法)を用いて評価した左室 global longitudinal strain(GLS)が有用とされています。しかしながら、冠攣縮性狭心症の痙攣の形態による左室 GLS の違いはよくわかっていません。びまん性冠攣縮患者と局所性冠攣縮患者とで左室 GLS の差を明らかにすること、また、これらの差が薬物療法の反応の悪さに及ぼす影響を検討することは重要であると考えます。

今回2014年4月1日から2024年5月31日までに冠攣縮性狭心症の診断を目的としたアセチルコリン負荷試験を受けた患者さんの左室 GLS の評価と、薬物治療を開始した後の胸痛発作による救急外来の受診に関して当院で後ろ向きに調査することとしました。

## 3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2025年 9月 1日まで

## 4. 研究に用いる試料・情報の種類

患者さんの背景(年齢、性別、身長、体重、既往歴、現病歴、併用薬)および臨床検査項目(血液、生化学、心エコー、2-D speckle tracking法で求めた左室 GLS)、臨床経過(薬物治療開始後の胸痛発作によ

る救急外来受診)を調査項目とします。

#### 5. 外部への試料・情報の提供

該当いたしません

#### 6. 研究組織

研究責任者 研究機関名 昭和大学江東豊洲病院 循環器内科 氏名 柴田恵多

#### 7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学江東豊洲病院

氏名：柴田 恵多

住所：135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

電話番号：03-6204-6511